

四日市港長期構想（中間案）の概要

四日市港長期構想の検討状況

現在、四日市港管理組合では、概ね15年後を目標年次とする港湾計画を改訂する予定であり、その改訂を念頭に、概ね30年後を見据えた四日市港の将来像の議論・検討を行い、新たな長期構想を策定することとしています。

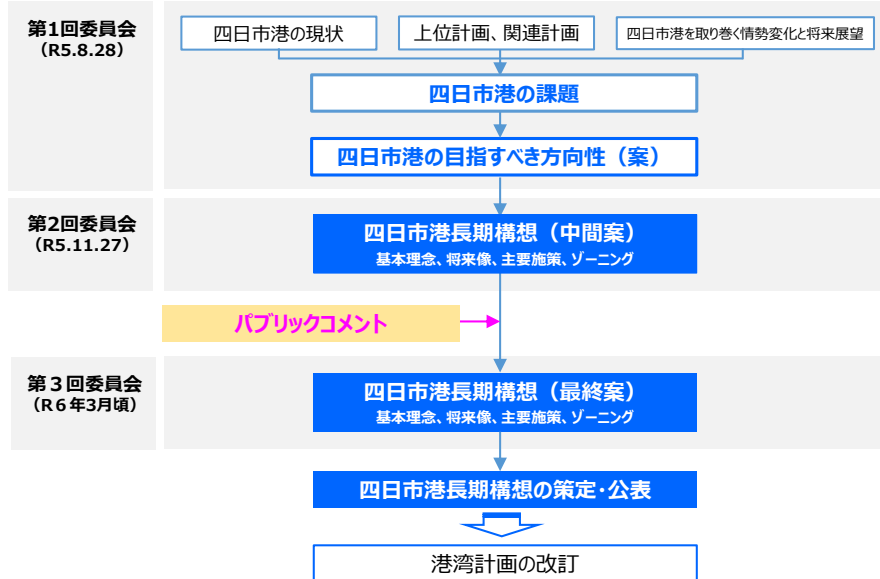
現在の四日市港長期構想は平成21年に策定し、平成23年には港湾計画を改訂しました。その後の四日市港を取り巻く情勢をみると、世界の潮流となっている2050年カーボンニュートラルの実現や、昨今の気候変動による災害の激甚化・頻発化等、四日市港を取り巻く状況が大きな変化を見せております。

そうした中、令和5年度に「四日市港長期構想検討委員会」を設置し、これまで2回の委員会を開催し、四日市港に対する諸要請と今後果たすべき役割などをふまえ、長期的視点に立った四日市港の将来像やその実現に向けた取組の方向性に関する助言をいただき、検討を進めてまいりました。このたび、「四日市港長期構想（中間案）」としてとりまとめたところです。

今回、この中間案について、広く県民・市民、港湾関係者等の皆様からのご意見を頂戴いたしたく、パブリックコメントを実施させていただくことになりました。

今回のパブリックコメントを通じて、皆様から頂戴したご意見をふまえて、長期構想の最終案を検討・策定し、今後の港湾計画の改訂へとつなげていく所存です。

【四日市港長期構想の策定の流れ】



四日市港の将来像(案)

新たに策定する四日市港長期構想では、「地域に貢献する、なくてはならない存在としての四日市港づくり」の基本理念のもと、概ね30年後の四日市港の目指すべき姿として4つの将来像を整理し、将来像実現に向けた政策の柱を整理しました。

基本理念			
「地域に貢献する、なくてはならない存在としての四日市港づくり」			

将来像			
将来像1 背後圏産業の持続的な成長を支えるみなど・四日市港	将来像2 魅力にあふれ、人々が交流するみなど・四日市港	将来像3 住民・産業を守るみなど・四日市港	将来像4 自然とヒト・モノが共生するみなど・四日市港

将来像の実現に向けた取組	
政策の柱	施策

I 背後圏産業の持続的な成長を支える港づくり (物流・産業への貢献)	1	国際拠点港湾としての機能の充実・強化
	2	四日市港及びその背後圏の脱炭素化の促進
	3	国内複合一貫輸送網の構築
	4	背後圏産業の動向を捉えた港湾サービスの提供
	5	臨港交通体系の充実・強化
	6	クルーズ船誘致の推進

II 魅力にあふれ、人々が交流する港づくり (交流の創出)	1	親しまれる港づくり
	2	まちづくりと一体となって、賑わいを創出する港づくり

III 住民・産業を守る港づくり (安全・安心の確保)	1	防災対策の推進
	2	港湾施設の計画的・効果的な維持管理
	3	船舶航行及び港湾活動の安全性の確保
	4	災害復旧・復興活動への対応

IV 自然とヒト・モノが共生する港づくり (環境の保全)	1	自然海浜・干潟の保全
	2	良好な港湾空間の創出
	3	地球にやさしい港づくり

空間利用ゾーニング(案)

四日市港の限られた港湾空間の中で、四日市港の将来像が確実に実現されるためには、そのための多様な港湾機能が適正に配置され、結果として港湾空間全体が効率性、快適性、安全性等に富んだ空間とならなければなりません。そのため、四日市港の港湾空間を、将来の利用の方向性も加味しながら、次のように「物流ゾーン」、「産業ゾーン」、「交流ゾーン」、「環境ゾーン」という4つの機能区分・用途別にゾーニングを行い、それぞれのゾーンごとに必要な取組を重点的かつ効率的に進める必要があります。

物流ゾーン

- ✓ 霞ヶ浦地区は、国際拠点港湾としての機能の充実・強化や、背後圏産業の動向を捉えた港湾サービスの提供、臨港交通体系の南北軸の強化に向けた整備の促進に取り組み、国際物流拠点としてのポテンシャルを一層高めています。
- ✓ コンテナターミナルに隣接する土地は、脱炭素化や次世代産業等のニーズに資する活用に向けた検討をしています。
- ✓ 四日市地区は引き続きバルク貨物等の取扱いの中心として役割を果たしていきます。
- ✓ 背後圏産業をはじめとしたさまざまな需要をふまえ、霞ヶ浦地区や四日市地区で新たな内航需要に対応したサービスの提供に向けた取組を進めています。
- ✓ さらに、今後想定される浚渫土砂等の処分用地不足を解消し、安全・安心な物流機能を確保するため、沖合に処分用地の確保に取り組めます。

産業ゾーン

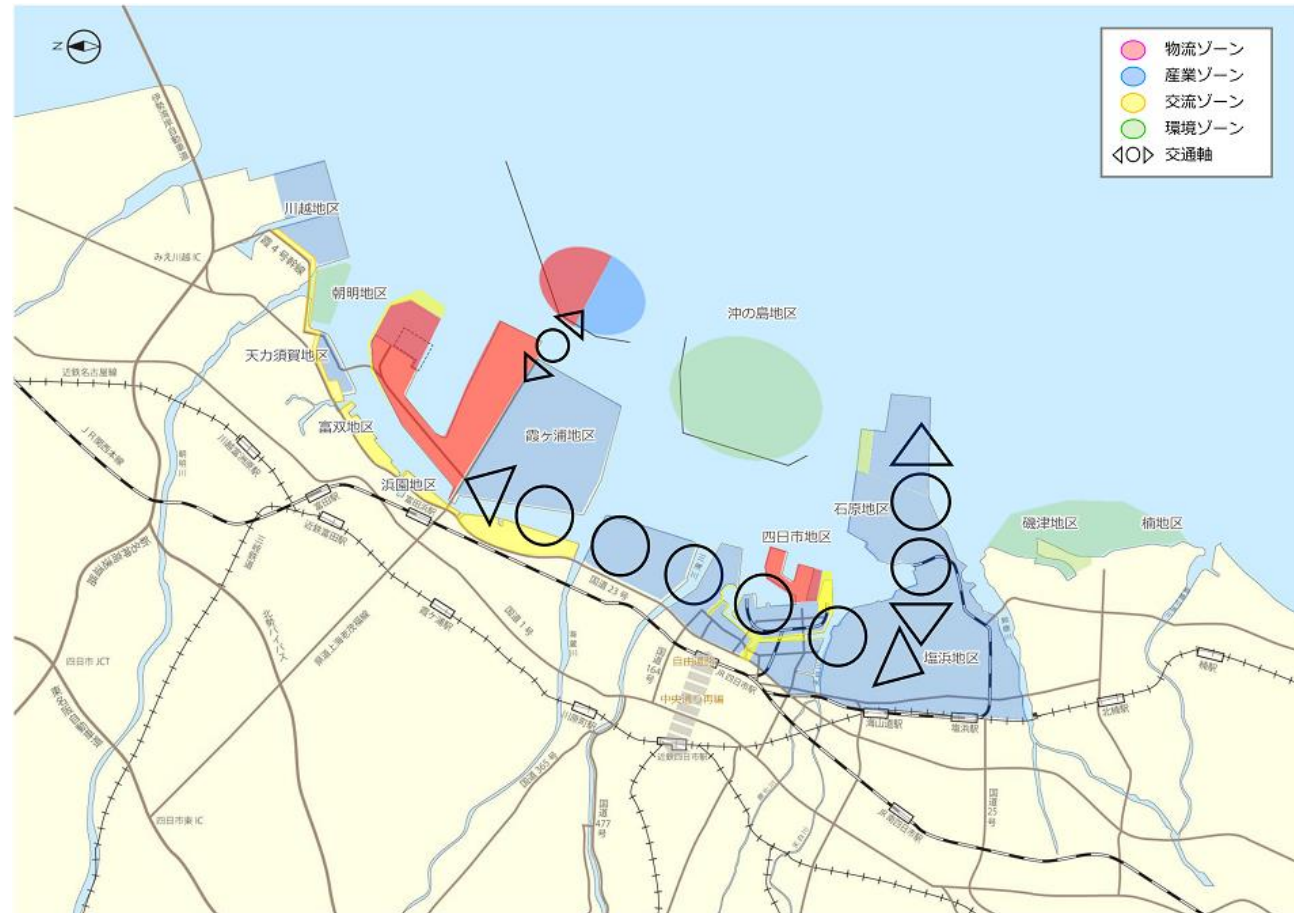
- ✓ カーボンニュートラルポートの形成やカーボンニュートラルコンビナートの推進に向け、霞ヶ浦地区については、沖合に産業空間を確保し、脱炭素化に資する活用に向けて取組を進めます。
- ✓ 石原地区についても、脱炭素化に資する活用に向けて取組を進めます。
- ✓ 併せて、課題となっているコンビナート間の連携強化に向けて、臨港交通体系の南北軸の強化に向けた整備を促進し、産業機能の充実・強化に努めます。

交流ゾーン

- ✓ 川越地区から霞ヶ浦地区にかけては、水際線沿いに富双緑地、霞ヶ浦緑地など、親水空間が点在しています。これらを、相互に連続性を持たせることにより、水際線の空間全体としての魅力を向上させます。
- ✓ 四日市地区においては、「四日市みなとまちづくりプラン(基本構想)」や四日市市が進めるまちづくりの動きと連携しながら、みなとの文化や景観を活かした交流空間の形成を図ります。

環境ゾーン

- ✓ 朝明地区や磯津地区、楠地区など、豊かな自然が存在しており、これらを次世代に継承するための保全に取り組めます。
- ✓ 石原地区における一般・産業廃棄物埋立区域では、新たな環境空間の形成を図ります。



- 物流ゾーン………背後圏産業を物流面で支えるための物流拠点としての港湾の機能
- 産業ゾーン………臨海部産業が生産活動を行うための産業空間としての港の機能
- 交流ゾーン………人々が憩い活動できる空間としての港の機能
- 環境ゾーン………環境を保全し、活かしていくための空間としての港の機能

四日市港長期構想(中間案)の全文は、下記URLを参照ください。
http://www.yokkaichi-port.or.jp/yokkaichi_ltplan_public.html